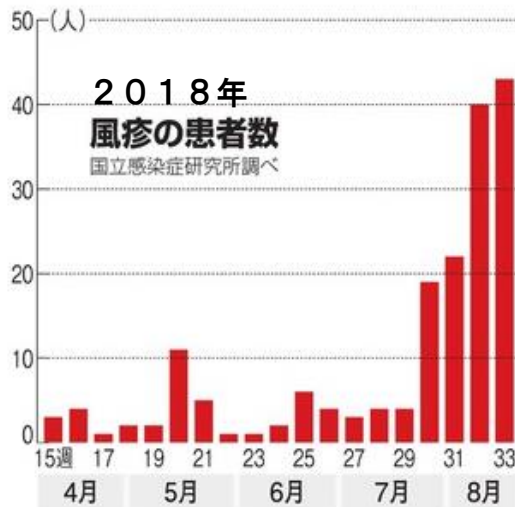


風疹の流行

風疹は発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性疾患です。症状は不顕性感染から、重い合併症まで幅広く存在します。妊娠20週までの妊婦さんが感染すると出生児がいろいろな異常を持つ先天性風疹症候群(難聴や心疾患、白内障など)を発症する可能性があります(2013年の流行の時には45名が報告)。

2006年より風疹のワクチンはMR(麻疹・風疹)混合ワクチンとして、1歳と小学校入学前の2回の定期接種となっています。これ以前の出生の人は、中学1年生、高校3年生のときに2回目の接種を受けるようになっていました。経過よりこれらの情報が十分伝わらず接種率が十分得られず、免疫状態が不十分である可能性があります。2013年に大きな流行があり、その後発生は低数でしたが、本年関東を中心に上昇が見られています。男女比では男性は女性の3倍になります。



風疹の皮疹

空気感染で感染から2週間
くらいの潜伏期間があります。
発熱、発疹、リンパ節の腫脹
(耳介後方)が特徴です。
これらがそろわない場合も
あります。妊娠中はワクチンは
使用できません。抗体が不十分
の時は妊娠前にワクチンを
受けておく必要があります。